

未来の主役が“ミライ”を想う

IMPACT BOOK

FUTURE GENERATIONS EDITION



将来世代と共に インパクトを起こそう

by OIOI

将来世代(※)が持つ価値観や発想力は、社会を良い方向に変えていく“インパクト”を起こす原動力となります。そんな将来世代のみなさんと、今、社会で活躍している大人たちと共に、すべての人が「しあわせ」を感じられるインクルーシブ（あらゆる人が排除されないこと）な社会の実現をめざしたいとの想いから生まれたのが、この『IMPACT BOOK（インパクトブック）』です。“インパクト”とは、会社や活動、人などが“社会に与える良い影響”のこと。このブックを通じて、将来世代も、大人たちも、お互いにアイデアを出し合い、共に取り組み、「しあわせ」な未来に向かって“インパクト”を生み出すためのヒントを見つけるいただけたらと思います。

※ 将来世代とは

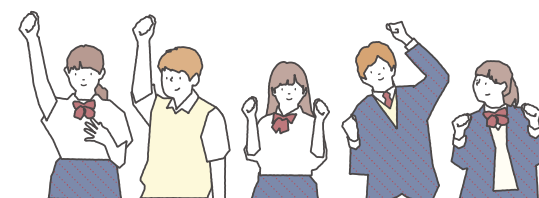
現在の中高生やこれから生まれてくる次の世代など、未来の世界で主役となるみなさんのことを指します



取材企画「パタゴニア・編」→ P11

本ブックの制作には 中高生も参加しました！

企業に取材に行ったり、生の声を寄せてもらったり、ページをチェックしたり…、本ブックは中高生のみなさんの協力のもと、制作しました。



取材企画「ヘラルボニー・編」→ P19



取材企画「雨風太陽・編」→ P25



「しあわせ」な社会をめざして “インパクト”のある話題を集めよう

いま、世の中には“インパクト（社会や環境に与える良い影響）”を生み出す企業や活動が増えています。インパクトを生むいろんな企業や活動のことを知ると、すべての人が「しあわせ」を感じられる未来社会の形が少しははっきりしてきて、自分は何ができるのか・何をしたいのかが見えてくるかもしれません。そこで、次のページよりさまざまな“インパクトのある話題”をご紹介します！

読み方のポイント

POINT 1

“インパクトのある話題”を集めます

これより、とり・ねこ・もぐらのナビゲーターが登場します。ナビゲーターは、街で“インパクトのある話題”を見つけられる“目”を持っています。

POINT 2

3つのテーマに分かれています

同じ1つの社会でも、見る角度によって見つかる課題は違います。とり・ねこ・もぐらはそれぞれ「上空」「街なか」「光の届かない場所」から、3つのテーマに合わせて社会を見ていきます。

POINT 3

中高生のみなさんもいざ街へ！

中高生のみなさんも“インパクト・ルーベ”を手に、ナビゲーターと共に街へ行きましょう！



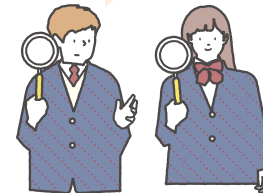
インパクト・ルーベとは

とり・ねこ・もぐらの“目”を借りて街を見られるようになり、インパクトのある取り組みがどんどん見つかる不思議なアイテム

テーマ2 一人ひとりの「しあわせ」を共に創る

テーマ2では、一人ひとりの「好き」や個性、健康、お金の使い方など、個人の自由が認められる社会をめざして取り組んでいる話題を集めます。

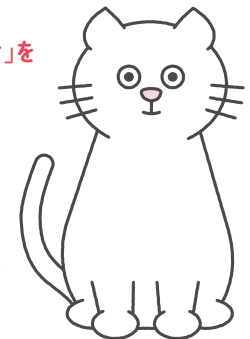
街にある人々の
「しあわせ」を見つけます！
▶ P13～



ナビゲーター

みんなの「しあわせ」
を見つけるねこ

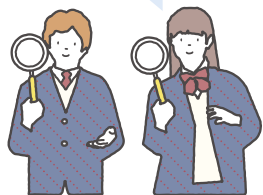
福ちゃん



テーマ1 将来世代の未来を共に創る

テーマ1では、「将来世代がずっと暮らし続けられる、持続可能な地球の未来をつくること」をめざして取り組んでいる話題を集めます。

これからの地球のヒントを
街に見に行きます！
▶ P5～



ナビゲーター

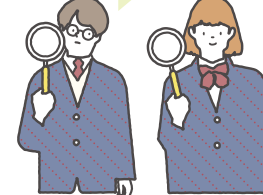
「持続可能な未来」を
見つけるとり
サスティーナ



テーマ3 共創のエコシステムをつくる

テーマ3では、「誰もが輝ける機会を平等に与えられる場づくり」をめざして取り組んでいる話題を集めます。

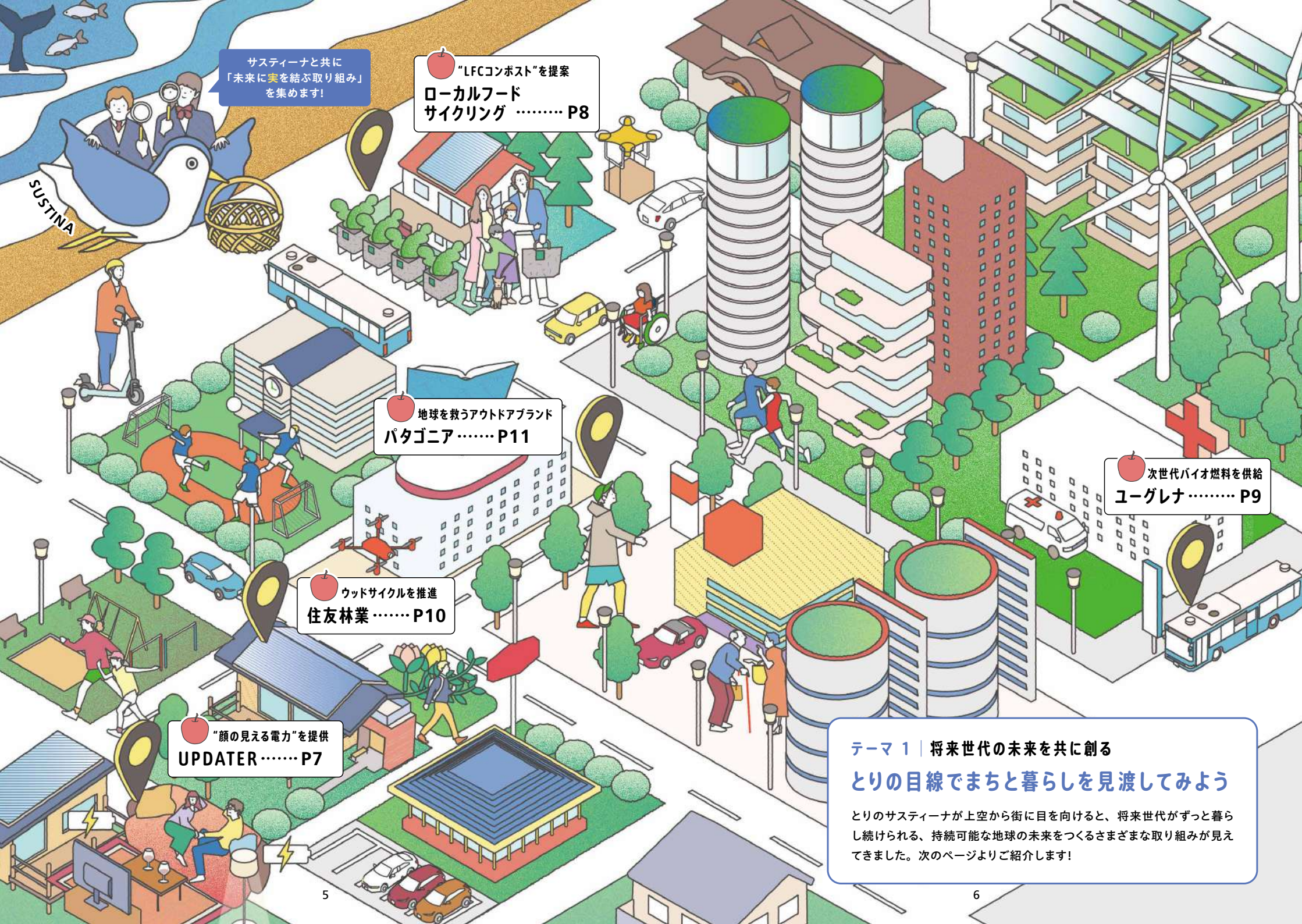
みんなが活躍する場を
掘り起こします！
▶ P21～



ナビゲーター

「共創のエコシステム」を
見つめるもぐら
えこら





サスティーナと共に
「未来に実を結ぶ取り組み」
を集めます!

“LFCコンポスト”を提案
ローカルフード
サイクリング …… P8

地球を救うアウトドアブランド
パタゴニア …… P11

ウッドサイクルを推進
住友林業 …… P10

“顔の見える電力”を提供
UPDATER …… P7

次世代バイオ燃料を供給
ユーグレナ …… P9

テーマ 1 | 将来世代の未来を共に創る とりの目線でまちと暮らしを見渡してみよう

とりのサスティーナが上空から街に目を向けると、将来世代がずっと暮らし続けられる、持続可能な地球の未来をつくるさまざまな取り組みが見えてきました。次のページよりご紹介します!



UPDATER

つくり手と使い手をつなぐ 「顔の見える電力」

#みんな電力
#顔の見える電力
#再生可能
エネルギー

太陽光や風力、地熱といった自然の力を利用した「再生可能エネルギー」は、CO₂などの温室効果ガスがほぼ発生しない、持続可能な電力といわれています。しかし、日本の再生可能エネルギーの発電比率は約 20.3%（2021 年度、資源エネルギー庁）とまだまだ不十分。さらなる普及が求められる中、注目を集めているのが UPDATER 社の「**みんな電力**」です。

みんな電力は、**自分が気に入った発電所を応援できるサービス**。たとえば農家さんや地域の人々、企業など、さまざまな人たちが畑の脇や建物の屋上といった空間を活用し、太陽光パネルを設置するなど再生可能エネルギーの発電所を各地につくっています。消費者は、電気のつくり手の顔や想いといったスト

ーリーが見える「**顔の見える電力**」を使うことができます。

会社設立のきっかけは、代表・大石英司さんのささいな思いつきでした。電車の中で携帯電話の充電が切れそうだったとき、ソーラーパネル付きの充電器を使っている人を見て「この人がつくった電気を買えたら良いのに」と思ったそうです。当時は突拍子もないアイデアでしたが、2011 年、再生可能エネルギー事業の会社を起業。初めはビジネスモデルを手探りする日々が続いたといいますが、2016 年に電力が自由化され、電力の小売りサービスを始めてから会社は大きく成長しました。

地球に優しい電力を楽しく選び使うだけで、暮らしは少し豊かになります。



みんな電力は、全国約 1,000 カ所の再生可能発電所と契約。写真左は結び合い農園ソーラーシェアリング 1 号機、右は柏そらびか発電所第 1 号

みんな電力エボスカードは、再生可能エネルギーの発展に貢献できるクレジットカード。新規入会するとみんな電力に登録された発電所に応援金 1,000 円が寄付される



ローカルフードサイクリング

生ごみを循環させる、 地球に優しい暮らし

#LFCコンポスト
#生ごみを
捨てない暮らし
#栄養循環

日本では、可燃ごみとして回収されることの多い“生ごみ”。しかし、生ごみは約 80～90%が水分のため、処分するのは大変です。焼却させるために大量の化石燃料を使う必要があるなど、環境への影響が問題になっています。**その課題を解決するアイデアの 1 つが「コンポスト」**です。コンポストとは、生ごみなどの有機物を微生物の力で発酵・分解し、たい肥をつくる仕組みのこと。植物の成長に大切な栄養素をたっぷりと含むたい肥は、畑の土づくりに活用することができます。

ローカルフードサイクリングが販売する「**LFC コンポスト**」は、これまでの日常を“**たのしい循環生活**”に変えてくれるアイテム。“都会でも簡単、便利でシンプル”に使えるコンポストで、まずは生ごみの分解を速め、悪臭を抑える基材を中に入れたら、風通しが良く、雨のかかりにくい場所（たとえば、ベランダなど）に設置します。あとは定期的に生ごみを投入して、混ぜ合わせるだけ。約 3 カ月でたい肥が完成します。

できたたい肥はそれぞれの家庭で菜園づくりに利用することはもちろん、ローカルフードサイクリングでは**地域内で“栄養循環”**させることも目指しているといいます。持ち運びやすいトートバッグ型になっているのも、実はそのため。たい肥を地域のマルシェに持って行き、地域の農家さんから野菜を買うときに渡すと、畑で活用されて、またマルシェに野菜が並び、といった循環も一例です。すでに一部地域で実現しており、今後の広がりに期待が高まります。



水や虫の侵入を防ぐ特注のファスナー付き専用トートバッグはペットボトルの再生生地を使用



栄養豊富なたい肥からは元気な野菜が育つ



2023 年、マルイファミリー溝口の「食の循環」をテーマにしたイベントに出店。コンポスト体験のワークショップも行った



LFC コンポストをつくった、ローカルフードサイクリング代表のたいら由子さん。コンポストの研究開発を 30 年以上行っている



ユーグレナ

未来の乗り物を動かす、 次世代バイオ燃料

#ミドリムシ
#サステオ
#次世代
バイオ燃料



“地球健康食”と銘打つ食品ブランド「からだにユーグレナ」



「Bangladeshの子どもたちにクッキーを届ける活動「ユーグレナGENKIプログラム」は2024年で10周年を迎えた

ミドリムシとして知られるユーグレナには、ビタミンやアミノ酸など 59 種類もの栄養素が含まれています。そんなミドリムシを食用として世界で初めて屋外での大量培養に成功した会社が「ユーグレナ」です。2020 年には次世代バイオ燃料「サステオ」の供給を開始。軽油などの従来の燃料に混合することが可能で、車やバス、船舶の燃料のほか、持続可能な航空燃料（SAF）としても注目されています。サステオの主な原料は、**使用済みの食用油などのバイオマス（生物資源）**。バイオマスが原料なので、石油など化石燃料と比べた場合、CO₂ の排出量を減らす効果が期待できま

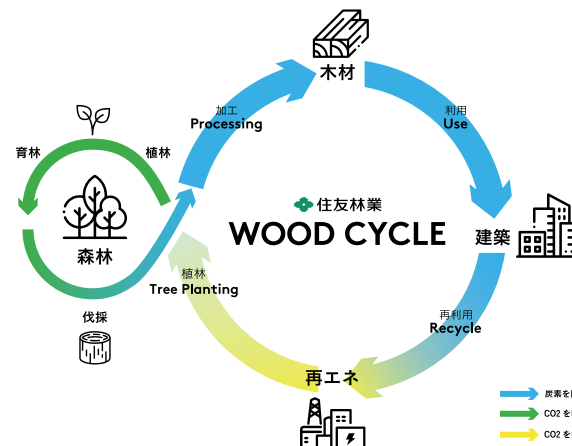
す。また、丸井グループとの取り組みでは、「マルイ・モディ」の飲食テナントなどから排出される使用済み食用油をバイオ燃料の原料の一部としてリサイクル活用。さらに、都内 13 店舗の「マルイ・モディ」の配送用トラックに「サステオ」を使用しています。ユーグレナ社は、Bangladeshの子どもたちの栄養失調を解消することを目指してスタートした会社。現在はBangladeshの子どもたちにミドリムシ入りクッキーを無償で配布する活動など、ミドリムシの可能性を広げながら、明るい未来をつくるべくさまざまな社会課題に取り組んでいます。



住友林業

脱炭素につながる、 森を育てる木造建築

#ウッドサイクル
#脱炭素
#木造建築



脱炭素を目指す建築

LCCM (ライフ・サイクル・
カーボン・マイナス) 住宅



建てる時から暮らすときまで、住宅の生涯を通じて CO₂ 排出量がマイナスになる住宅。居住時には“省エネ”と“創エネ”を並行して行う

中大規模木造建築



写真は 2024 年、米ダラスに完成した木造 7 階建てのオフィス。建設時の CO₂ 排出量は、鉄筋コンクリート (RC) 造より大幅に削減した



2026 年、「渋谷マルイ」が日本初の木造商業施設に生まれ変わる。構造の約 60% に木材を使用

ネットゼロカーボンビル



建物の生涯を通じて CO₂ 排出量が実質ゼロになるビル。写真は 2023 年、豪メルボルンに完成した、最高層の 15 階建木造オフィス

近年、街に木造のビルが増え始めています。建物に「木」を活かすどのようなメリットがあるのか、住友林業の「ウッドサイクル」に注目してみましょう。

ウッドサイクルとは、森林経営から木材建材の製造・流通、木造建築、バイオマス発電まで、「木」を軸とした事業活動のこと。住友林業では「森林」「木材」「建築」の 3 つの分野で脱炭素事業を推進しながら、ウッドサイクルを回すことで、社会全体の CO₂ 吸収や炭素固定を促し、**脱炭素社会の実現**に貢

献することを目指しています。

木は光合成により CO₂ を吸収して成長しますが、成熟すると CO₂ を吸収する力が弱まります。そこで十分に育った木を切り、苗木を植えて、森を若返らせていくことが大切です。切った木は、建築や家具などに利用します。木材の中にはかつて吸収した CO₂ が炭素 (C) として固定され、燃やさない限り大気中に CO₂ が放出されることはありません。そのため木造建築が増えるほど、大気中の CO₂ を減らすことにつながるのです。



パタゴニア

地球を救うためのアイデアが詰まったアウトドアブランド

#地球を救う
#リペア
#社会的責任

中高生が取材する企画 第一弾

パタゴニアとは

1973年にアメリカで創業したアウトドアブランド。企業のミッションは「私たちは、故郷である地球を救うためにビジネスを営む」

“地球を救うためにビジネスを営んでいる”という「パタゴニア」は、原料から、製造、輸送、販売、そして販売後まで、すべての過程で環境に最大限配慮していることが特長です。今回、中高生が取材に訪れたのは「パタゴニア 渋谷ストア」。取材当日は、店内で「Worn Wear」のポップアップストアが開催されていました。Worn Wearとは、不要になったパタゴニア製品を買い取り、必要ならリペア（修理）して、再び販売するという資源を循環させる取り組みです。買えるのは一人2点まで、そこには「モノを長く使い続けよう」や「よく考えて、本当に必要なものだけを買う」というメッセージが込められています。



「パタゴニア 渋谷ストア」は、1998年にオープン。クライミング（登山）をはじめ7種類のアウトドアスポーツ用のウェアやギアなどを販売している。製品はすべてオーガニックコットンやリサイクル素材などを使用。たとえば、人気の高い「バギーズ」というシリーズは、漁網をリサイクルしたナイロン100%の生地で作られている

取材メンバー

あいり、もっちー、
ほったん、まっさー、
たっけー（オンライン参加）

取材に応じてくださった方

篠 健司さん（パタゴニア日本支社 環境社会部）、成田直隆さん（渋谷ストアマネージャー）



取材スタート！



たっけー

商品をつくるときに消費者の意見を取り入れ、カスタマイズすることが大事だと思うけど、消費者のニーズに合わせる工夫はしていますか？

成田さん：カスタマーからの声、リクエストは製品づくりに非常に直結していて、活かされています。また、私たちの製品にとってはデザインや機能性だけでなく、「いかに環境に配慮しているか」という点も極めて重要です。その点に共感して来店くださる方も多く、売り場にいると「この製品にはどのような素材が使われていますか？」と聞かれることがよくあります。



あいり

材料への取り組みはわかりやすいんですが、店舗を運営する上で環境に影響が出るからやらないようにしていることはありますか？

成田さん：いろんな取り組みをしていますが、たとえば関東では、工場から製品を運ぶときに1台のトラックが何店舗もまわります。時間はかかりますが、何台もトラックを動かすより良いですね。



K.M

渋谷、吉祥寺、軽井沢の店舗に行ったことがありますが、どこも駐車場がありませんでした。排気ガスの問題に関係ありますか？

篠さん：中には駐車場がある店舗もありますが、電車やバスの公共交通機関で行きやすい場所に多く出店しています。確かに、できるだけ公共交通機関を利用していただいた方がCO₂の排出量を抑えられるのでおすすめです。



まっさー

オーガニックコットンを100%使っているそうですが、メリットを教えてください。

成田さん：以前、アメリカにある倉庫で、体調不良を起こすスタッフが現れました。原因を調べたらコットンを栽培するときに使った化学薬品の影響だったので、オーガニックコットンを使うように。化学薬品は農家さんの健康にも悪いので、コットンの生産現場を守る仕組みもつくりました。



もっちー

私の学校では全校生徒がジャージを着て生活していますが、卒業するとそのジャージはみんな捨てられると思います。大量のジャージを生まれ変わらせる方法はありませんか？

篠さん：ジャージはいらなくなる時期が“卒業時”と決まっているので、一気に回収して、まとめてリサイクルにまわっている学校もありますよ。あとは、PTAなどに協力してもらって、後輩に譲る仕組みをつくるのも良い方法だと思います。



ほったん

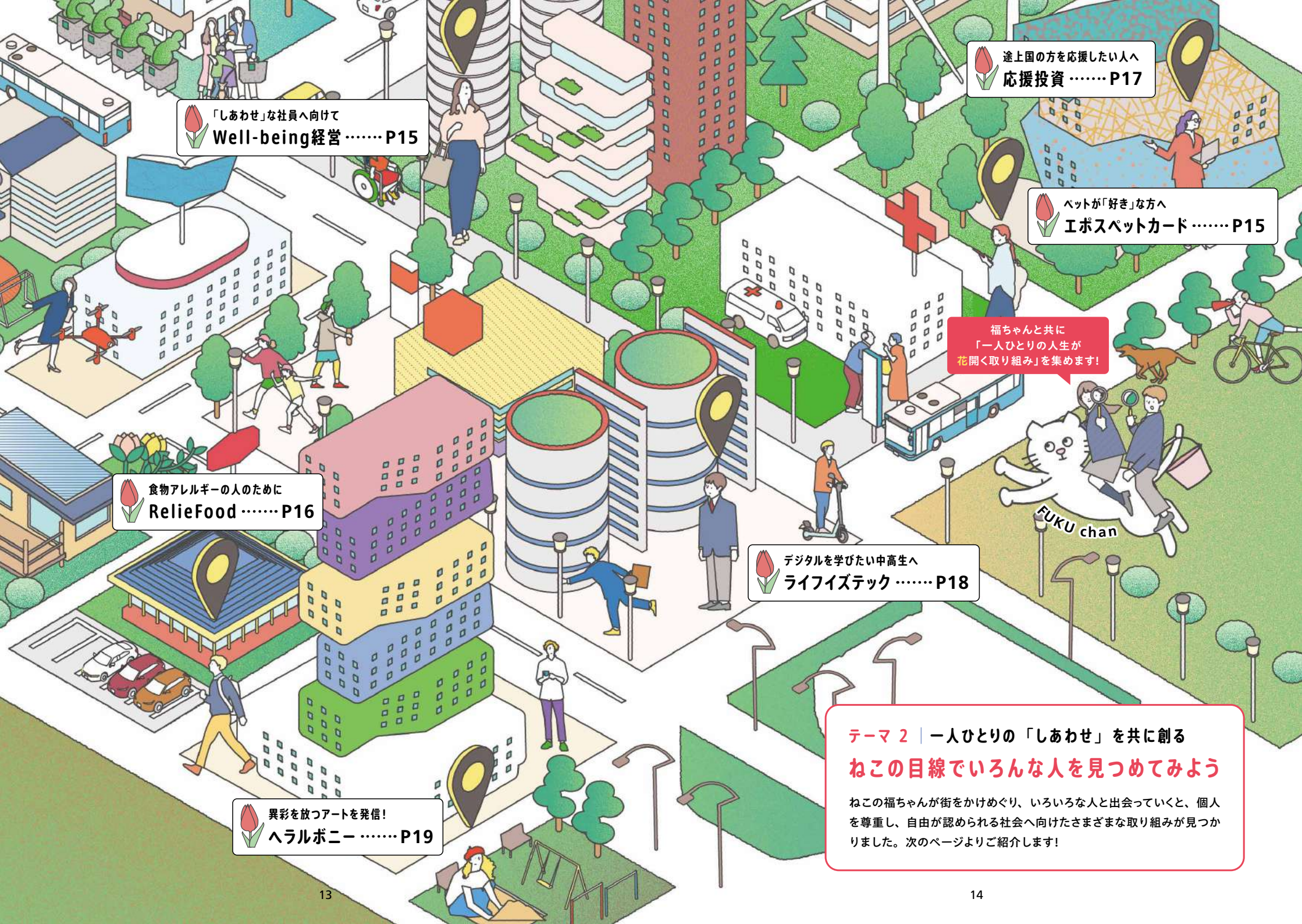
中学生でも今すぐ取り組めることや、今後取り組んでほしいことはありますか？

篠さん：何か気になる問題が発生したときに、もちろん対処方法を考えることも大切ですが、起きた原因を考えて、調べて、身近な人に伝えるようにすると良いと思います。原因まで深く問うことを続けていくと、これから社会に出て、仕事で壁にぶつかったときにきっと役に立ちますよ。

最後にひとこと！

素材にこだわっていることは知っていたけど、それだけでなく、1つひとつのことに強いこだわりがあったことがわかりました。100%環境に配慮して、地球に貢献しているすごい会社だと思いました。by もっちー







愛する家族をデザインした 世界に1枚だけのマイカード

#「好き」を応援
#寄付

丸井グループの「エポスカード」では、一人ひとりの「好き」を応援したいという思いから、1枚ずつオリジナルデザインのクレジットカードが作れるサービス「エポスオリジナルワンカード」を立ち上げました。その第1弾として、2024年3月に発行を開始したのが「エポスペットカード」です。エポスペットカードは大切な家族であるペットをクレジットカードの券面にすることができ、利用額に応じて付与されるポイントの0.1%分が保護犬猫の支援活動に寄付されます。



つくり方は簡単で、専用サイトに写真をアップするだけ。プラスチックのカードもスマホアプリのデジタルカードも同じデザインになる



社員の心と身体を健康にし、 「しあわせ」にする経営方針

#well-being
#イキイキ働く

ウェルビーイング「Well-being 経営」は、健康でイキイキと活力にあふれ、日頃から「しあわせ」を感じ、社員を増やそう、という丸井グループの経営方針です。そんな社員が増えたと会社の魅力はさらにアップし、生産性が向上し、より社会に役に立って企業になれるといいます。主な取り組みは、働き方改革や健康課題など「病気になること（基盤）」と「今よりもっと活力高く、しあわせになること（活力）」の2つがあり、「活力×基盤のWell-being経営」を推進。それぞれのテーマに合わせ、社内研修やイベントなどを行っています。



「Well-being（ウェルビーイング）」とは、Well（良い）とBeing（状態）を組み合わせた、心も身体もともに満たされた状態を表す言葉



“みんなで一緒に楽しむ” インクルーシブスイーツ

#インクルーシブ
スイーツ
#食物アレルギー
#国産米粉

日本学校保健会の2022年度調査によれば、食物アレルギーのある小中高生は全国に約52万7,000人。それは2013年度調査よりも約12万人多い結果で、アナフィラキシー（激しいアレルギー症状）を起こしたことのある生徒も増加していました。かくして、今ますます関心が高まる食物アレルギーという課題に、スイーツを通じて取り組んでいるのが「RelieFood」です。

2022年に創業した「RelieFood」が手がける「ISSA KITCHEN TOKYO」は、食物ア

レルギーのある人もない人も「みんなで一緒に楽しむ」がコンセプトのインクルーシブスイーツブランド。代表の加納颯人さんは、家族に重い食物アレルギーがあったことから、特定原材料等28品目を使用しないレシピのスイーツをつくりました。その活動は評価され、加納さんは新しい食の創造を表彰する「安藤百福賞」を史上最年少の18歳で受賞したほか、2024年8月にはForbes JAPAN誌の「世界を変える30歳未満」にも選出。これからの「RelieFood」の展開にも要注目です。



RelieFood代表の加納颯人さんは、2024年3月、中学生を対象とした丸井グループ主催の体験型プログラム「マルイミライ・スクール」(P27掲載)でトークセッションを実施。「起業する際にぶつかった壁は？」など、多くの質問が飛び交った



メイン商品の米粉を主原料としたクッキーは、チョコやマンゴーなどフレーバーも豊富。マルイミライ・スクールの会場でも、参加者の中学生たちが試食して大好評だった



マルイミライ・スクール
みんなの声

サククリ! 家族にも好評でした
また食べたい 優しい味...♡



途上国の人々を応援しながら 資産形成につなげる

誰かの未来を応援
新たなお金の使い方
社会貢献

世の中には、生まれた国や家庭環境など、自分の力ではコントロールできない事情によって人生の選択肢が限られてしまう人は大勢います。特に開発途上国では、本当はやりたい仕事や夢があるのに、貧困を理由にあきらめざるを得ないというケースは決して少なくありません。

そんな人々に向け、丸井グループが取り組んでいるのが「**応援投資（ソーシャルボンド）**」です。途上国で金融^{※1}サービスを行っている「五常・アンド・カンパニー」などと手を組み、金融サービスを受けられないような貧しい人たちに事業の元手として融資^{※2}をすることで、収入や生活の向上を支援しています。

その仕組みを成り立たせているのが、みなさんの「**誰かの未来を応援したい**」という**気持ちです**。丸井グループは、まず「ソーシャルボンド」といわれる社債（国や企業がお金を借りるために発行するもの）を発行。応援投資に賛同する人がそれを購入することで支援のための資金が集まり、そのお金が五常・



応援投資の社債発行により、合計約15億円が途上国の人々の役に立っている

アンド・カンパニーなどを通じて途上国で役立てられるという仕組みです。応援する人にとっても銀行にお金を預けるよりも高い金利^{※3}が見込めるため、**社会貢献と資産づくりを両立できる**というのも、多くの賛同を得ている理由です。

融資先の多くは、農業に従事する女性だといえます。たとえば、インドではのべ140万人以上の女性たちに融資をし、家族の生活を支える原動力になっているそうです。応援投資で広がる支援の輪が、誰もが自分の未来をあきらめない世界をつくっています。

用語解説

※1 | 金融（きんゆう）

信用のもと、お金を貸し借りすること。主な金融機関には、銀行、証券会社、保険会社、クレジットカード会社などがある。

※2 | 融資（ゆうし）

金融機関や公的機関から事業資金などの「大きなお金」を借りること。返済は時間をかけて少しずつ行っていくが、利息を加えた金額を支払う必要がある。

※3 | 金利（きんり）

借りた金額に対してどのくらいの割合で利息が発生するのかを表す数値。通常はパーセント（%）で表記する。



デジタル技術を学び、 未来を切り拓く力を養う

IT教育
プログラミング教育
デジタル人材

「ライフイズテック」は、中高生のためのIT・プログラミングスクールを運営している会社です。「中高生ひとり一人の可能性を一人でも多く、最大限伸ばす」というミッションのもと、全国4,400校以上の公立・私立学校で約135万人が利用している**クラウド教材「ライフイズテック レッスン」**を提供するほか、夏休みなど長期休暇を利用して3～5日間にわたって通う**ITキャンプ「Life is Tech！」**事業などを行っています。

中でもITキャンプは、参加者のリピーター率が非常に高い人気企画。毎年恒例のクリスマスキャンプなど、90%以上がリピーターのものもあるといいます。また、会場として東京大学や早稲田大学など、大学のキャンパスを利用し、最先端のITを学ぶ環境が整えられているのも人気の1つです。海外キャンプでは、イギリスのオックスフォード大学などの一流キャンパスで開催されたことも。

そして、「Life is Tech！」の最大の特長といえば、**何といっても「楽しい」こと**。創業者の水野雄介



2010年創業。累計で随一の中高生参加者数を誇り、のべ5万人以上が受講。第一線で活躍する卒業生も多い

さんたちが「どうすればまた学びたくなるのか?」を追求してつくったというプログラムは、アミューズメント施設に行くようなワクワク感なのとか。

学生たちは実践的なプロジェクトを通じて学ぶことができ、ゲームやアプリを自分で企画して、ゼロから開発する過程を経験。技術だけではなく、論理的思考力や問題解決能力、チームワークの重要性も自然と養うことができます。ITに関する総合的な能力を磨く「ライフイズテック」での学びは、新しい扉をひらく鍵。自ら未来を切り拓いていく力が身につきます。



2011年からは「アプリ甲子園」を開催（2023年より丸井グループと共同主催）

最近始まったプログラムが、チームを組み、4日間でAIサービスを開発する「AI HACK FOR TEEN」。業界の第一線で活躍する先輩にアドバイスを受けながら、より高度なサービス開発を体験できる



異彩を放つアートを通じて、 新たな価値観を発信する

#異彩アート
#新しい文化
#障がいとアート

中高生が取材する企画 第二弾

ヘラルボニーとは

福祉を起点に新しい文化をつくり出していく会社。「障がいは欠落ではなく個性」であり、「普通じゃないことは可能性でもある」と信じ、掲げるミッションは「異彩を、放て。」

会社の設立は2018年。自社ブランド「ヘラルボニー」の名で製品を販売するなど、主に知的障がいのある契約作家のアート作品を世に送り出し、その使用料をお支払いする仕組みをつくっている会社です。日本全国52の福祉施設、241名の作家と契約し、さらに新たな海外のアーティストとの契約に向けても取り組んでいます。2024年7月にはフランス・パリに子会社「HERALBONY EUROPE」を設立。今後は海外での活躍も期待されています。



ファッションを中心に、異彩作家のアート作品でつくった製品のブランドを展開



ホテルの部屋、ラッピングバスのほか、成田空港の通路、JALのアメニティボーチなど、ヘラルボニーのアートは多彩なシーンで活躍している



ヘラルボニーの代表は、双子の松田崇弥さんと文登さん。起業したきっかけは、自閉症の兄・翔太さん（写真中）の存在から

取材はオンラインで実施！

取材メンバー

タク、みーひ、ゆゆ、りほ

取材に応じてくださった方

忍岡真理恵さん（COO（最高執行責任者））、佐々木笑美さん（広報チーム）



取材スタート！

どういうきっかけで会社を始めたんですか？



ゆゆ

忍岡さん：双子の兄弟が26歳のときにつくった会社です。2人には重度の知的障がいを持つお兄さんがいますが、お兄さんにとっては“普通”の行動が世間からは差別的な目で見られたり、「かわいそう」と同情されることにずっと違和感があったそう。そこでお兄さんと、お兄さんの暮らしを支えているお母さんが“ありのままに暮らす日常”が当たり前になる社会の実現を目指し、会社を立ち上げました。

同級生にもヘラルボニーのことを知っている人は結構多いんですが、会社が大きく成長する間に、課題はありましたか？



みーひ

忍岡さん：現在も課題だらけです(笑)。世界中どこを探してもヘラルボニーと同じような事業をしている会社はなく、お手本がないので常に手探りなのです。成功より失敗の方が多くいらいですが、めげずにやり続けることが大切だと思います。

昨年、地域で暮らすブラジルの子たちの絵を展示する企画を行ったんですが、自分と年代の違う人に理解してもらうのが難しく。取り組みを理解してもらうために伝え方の工夫はありますか？



りほ

忍岡さん：そうですね。何をやっても反対する人は必ずいて、私たちの場合は「障がいのある人を利用してお金を稼ぐ会社」といわれることもあります。でも、反対意見に流されてしまうと、やりたいことができなくなってしまいますよね。

アートコンペも開催しているそうですが、作家さんが自由にのびのびと描いた作品に順位をつけるのは難しいのではないかと思います。受賞者の基準はありますか？



りほ

忍岡さん：本当におっしゃる通りで、作家が自由に描いた作品を評価することに対して賛否両論があります。選考は4人の審査員が行い、議論は難航しますが、しっかりと一人を選ばせていただいて、その人を輝かせることに全力で取り組もうと決めています。複数人を選ぶよりも、一人に集中して売り出した方が影響力は大きいと思うからです。

ヘラルボニーのアートが発展すると、世の中にどんな良い影響がありますか？

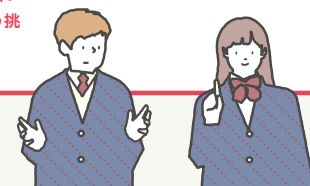


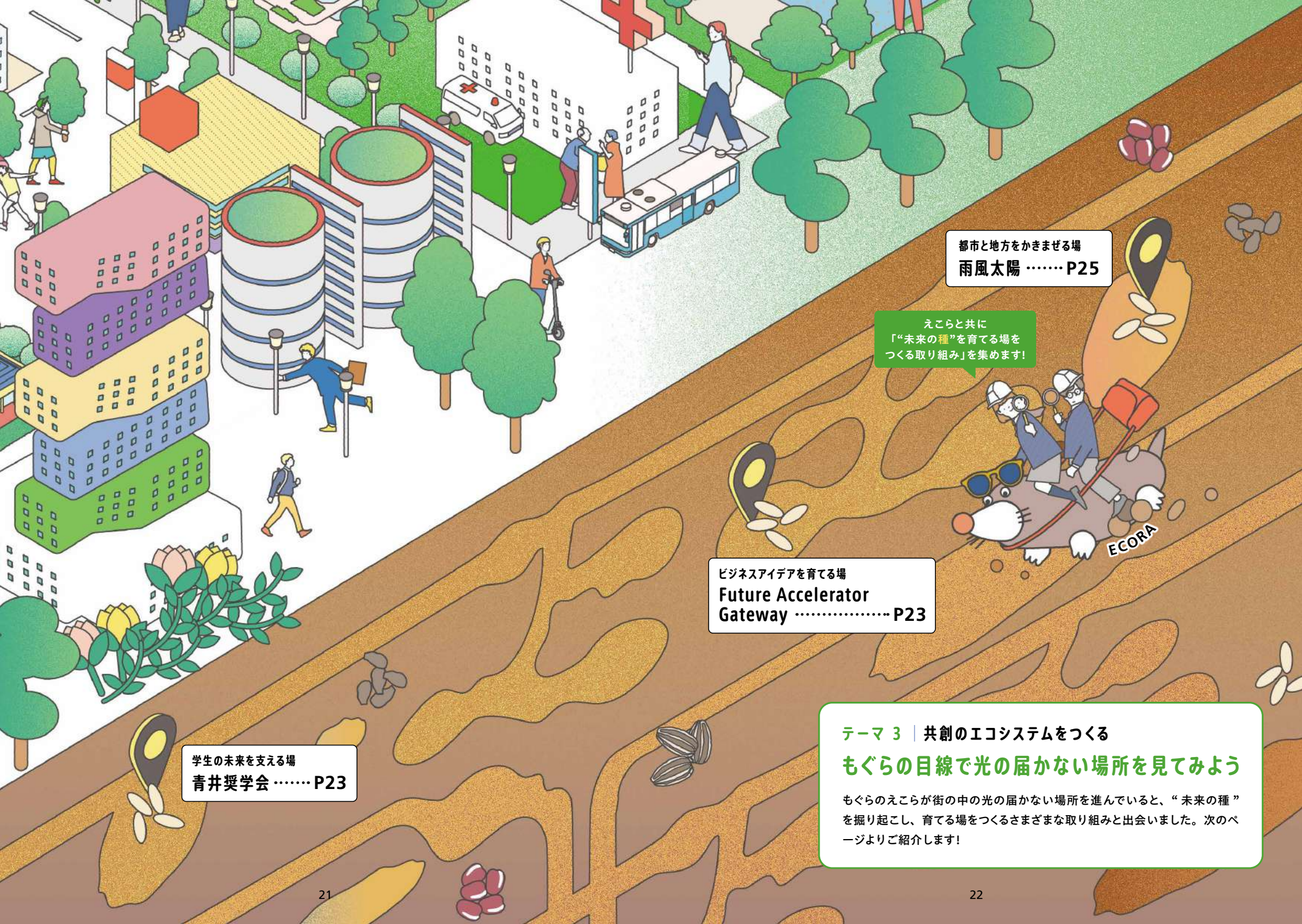
タク

忍岡さん：私たちが契約してくださっている作家のほとんどが、美術大学などで勉強した経験はありません。世間の常識にとらわれることなく、思うままに、好きに描いているだけなのです。でも、近年はAIが描く作品などが注目されたりしますが、人の感性だけで描いたアートの方が革新的ではないですか？ 私たちは「人間にしかできないこと」の価値を広く伝えていきたいと思っています。

最後にひとこと！

安定した道を選ばず、自分で考え、何事でもまずはやってみるという強い気持ちがあって、挑戦的な会社だと思いました。今後、自分もそういう挑戦をしていきたいです。by タク





都市と地方をかきまぜる場
雨風太陽 …… P25

えこらと共に
「未来の種」を育てる場を
つくる取り組み」を集めます！

ビジネスアイデアを育てる場
Future Accelerator
Gateway …… P23

学生の未来を支える場
青井奨学会 …… P23

テーマ3 | 共創のエコシステムをつくる もぐらの目線で光の届かない場所を見てみよう

もぐらのえこらが街の中の光の届かない場所を進んでいると、「未来の種」を掘り起こし、育てる場をつくるさまざまな取り組みと出会いました。次のページよりご紹介します！



青井奨学会

返済不要の 奨学金で、学生の 未来を支える場

#奨学金 #学びを可能に

家計の状況等により進学が困難な学生の中には、奨学金を借りて進学する方が多くいます。しかし、中には卒業後、奨学金の返済に追われてしまうケースも。「青井奨学会」は、丸井グループ創業者・青井忠治氏の「有為な人材を育成して社会に送り出したい」との想いから1973年に設立され、以来半世紀にわたり、学ぶ意欲のある優秀な学生に対して**卒業後の返済が不要な給付型の奨学金**を高校・大学進学および特定の留学を対象に提供し続けています。また、2012年からは事業の公益性が認められ、内閣総理大臣より「特定公益法人」の認定を受けるとともに、設立50周年を迎えた2023年には、大学奨学金の一人当たり給付額を月5万円から10万円に増額し、さらなる学びの支援を実現しています。



現役生や卒業生が集う交流の場を定期的に開催。人的交流を通じて奨学生同士が助け合えるコミュニティの実現を目指している



丸井グループ Future Accelerator Gateway

ビジネス アイデアが 実現に近づく場

#若手起業家 #アイデア創出

「アイデアを聞いてほしい」、「自分の力を試したい」など、いつか自ら事業を起こしてみたいと考えている人に注目してほしいのが丸井グループの「**Future Accelerator Gateway**」(以下、FAG)です。FAGは**ビジネスアイデアの事業化を目指すプログラム**。まずは25歳以下の方からアイデアを募集し、選ばれた方々と丸井グループ社員がチームを組織します。その後、現役の起業家メンターによるメンタリング(改善の支援)を行いながら、約3カ月にわたってアイデアを磨き上げ、いよいよ審査員の前で発表。優秀なアイデアには、協業や出資、事業創出を応援するプロジェクトチームを発足するなど、受賞者が丸井グループとともに事業を実行できる方法を検討していきます。



FAGは年一度の実施。2020年に立ち上げ、2021年に第1回大会を、2024年には第4回大会を開催した

質問! FAGに参加してみて、どうでしたか?

時間とお金がないシングルマザーを救う事業

ベンチャー・ Blossom
Venture Blossom



シングルマザーの雇用創出を目的に、チーズケーキ専門店をFC展開するアイデアを提案。「今はシングルマザーへの取り組みのほか、食を通じた親子体験事業も行っていて、地元企業を巻き込み職場体験を行う予定です」

中高生向けフェイクニュース対策プログラムを開発

くま(クラスルームアドベンチャー)



ファクトチェックの国内大会で優勝、世界大会では4位だったチームは、フェイクニュースを見やぶる大変さと面白さを味わえるプログラムを提案。「FAGに参加して得たものは“一歩踏み出して世界をつくっていく勇気”です」

“起業”を体験し、学べるカードゲームを考案

シナプススタジオ
Synapstudio



高校生の頃、ゲームによるコミュニケーションが自分と社会をつなぎ止めた経験をきっかけに、新たなカードゲームを考案。「FAGでは他チームのメンタリングも見ることができ、メタ認知(自分の考えの再認識)にもつながりました」

ウガンダの魅力を発信するビジネスを展開

グリーディ
Greenidy



提案したのは、ウガンダ産バナラビーンズのビジネス。「ビジネスの面も、社会課題の面も、何度もディスカッションを重ね、本当に良い経験になりました。その後、マルイでポップアップショップも出店でできて感謝しています!」



雨風太陽

都市や地方をかきまぜて、日本の魅力を引き上げる

#ポケットマルシェ
#おやこ地方留学
#関係人口

中高生が取材する企画 第三弾

雨風太陽とは

都市と地方の「関係人口」を生み出すためにさまざまな事業を展開している。企業のミッションは「都市と地方をかきまぜる」

会社を設立したきっかけは、東日本大震災。そのとき代表の高橋博之さんは、被災地で気づいたことがあったといいます。それは、被災者はボランティアさんの手助けに感謝する一方、都市から来たボランティアさんは体を動かし、人の役に立てることにやりがいを感じていたこと。それをヒントに、地方の生産者さんのお金を稼ぐのが大変な状況を、都市の人に喜ばれる形で上手くつないで、解決することはできないか、と考えたそうです。現在は「ポケットマルシェ」をはじめとした、都市と地方をかきまぜる事業を展開しています。



ポケットマルシェ（ポケマル）

日本最大級の産直アプリ。約8,300名の生産者が登録されている※。写真の「信州塩尻 つむぐ農園」は、甘くてジューシーな「糖もろこし」を生産
※ 2024年7月現在



東北食べる通信

1人の生産者を取り上げ、その物語を伝える雑誌と、そこで育まれた食べものをセットで届けるサービス



ポケマル おやこ地方留学

小学生の子どもと親御さんが各地の生産者のもとで貴重な体験ができる、6泊7日の地方留学プログラム

取材メンバー

タク、D、ほったん、みーひ

取材に応じてくださった方

仲野 脩さん（雨風太陽 PR ご担当）



取材スタート！



ほったん

ポケマル（産直アプリ）に掲載できる生産者さんの基準はありますか？

仲野さん：一番の基準は「生産を本業にしている人」で、趣味で農業をやっている人はNGです。理由は、適正な価格と品質を守るため。趣味の人が通常は100円するものを50円で売ったとしたら、本業の生産者さんのものは売れなくなってしまうですね。



D

「つくり手の顔が見える」ってよく耳にするんですが、ポケマルが他社と差別化できる強みがあれば教えてください。

仲野さん：そうですね。たとえばフリマ会場で、相手の顔を見て会話しながら買い物すると心が満たされると思いますが、ポケマルの特徴は、ユーザーと生産者さんがアプリ上で直接会話し、直接つながるようにしていることです。顔の見える買い物ができるユーザーだけでなく、生産者さんにとってもお客さんの声が直接届けばやりがいにつながります。



みーひ

高齢者の生産者さんとか、アプリを使うのに消極的な人も多いと思うんですが、生産者さんを獲得する上で困ったことはありましたか？

仲野さん：最初は苦労したと思いますが、会社の代表・高橋博之が「1,000人獲得する！」と一人で地方をめぐり、生産者さんに「将来はこうしたい！」と熱く語って、どんどん人数を増やしていました（笑）。



タク

『東北食べる通信』は月刊で、紹介できる生産者さんは年間わずか12人だから、解決のスピードを上げるために『ポケマル』を始めたって聞きましたが、なぜ今も発行し続けているんですか？ あと『東北食べる通信』に雨風太陽の名前とか、ポケマルの宣伝とか載っていませんでしたが、理由はありますか？

仲野さん：雑誌の中に会社名やポケマルをあえて出さない、ということではなく、確かにもっと載せてもいいですね（笑）。『東北食べる通信』を続けている理由は、WEBとは情報量が全然違うからです。1軒の生産者さんに数十時間かけて密着取材しているので、その土地の歴史から人の思いまで、1冊の中に伝えたい物語をすべて掲載することができます。



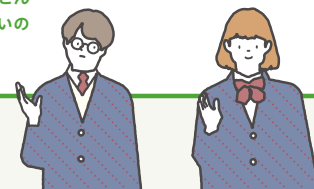
ほったん

「2050年までに関係人口を2,000万人にする」という目標があると思うんですが、達成した後にやってみたいことってありますか？

仲野さん：「関係人口」というのは、移住者でも観光客でもなく、地域と関わりを持つ人のことです。毎年、同じ地域のものを買う人、現地の人とLINEでやり取りしている人も関係人口になります。関係人口が増えれば、地方へ人の流れが生まれ、地方の経済が活性化しますよね。また、お祭りや工芸品など、伝統を受け継ぐ人も出てくるかもしれません。やがて多くの人が「日本各地の魅力を知っている」という状態になると、この先も各地の文化を絶やさず残していけるようになると思うのです。

最後にひとこと！

ポケマルおやこ地方留学では将来世代への先行投資までしていたり、どんな事業でも地方と都市を結び間に立つという軸が常にぶれないで、思いの強さを感じることができました。by みーひ



一人ひとりの「好き」を未来につなぐ 「マルイミライ・スクール」へ！

第1回「マルイミライ・スクール」レポート[2024年3月開催]

参加した中学生は全26名。
当日は、ユーグレナ（P9
掲載）の初代CFO小澤杏
子さんと3代目の渡部翠
さん、RelieFood（P16 掲
載）の加納颯人さんによる
2つのトークセッションの
ほか、自分の「好きなこと」
の先にある社会課題を見つ
け、アクションプランを考
えるワークショップを行い
ました。



僕の「好きなこと」は
魚です！



あんず先生に質問！

❶「マルイミライ・スクール」を通じて見えてき
た“中学生のチカラ”を教えてください。

はい、2つあります。1つ目は「“好き”への
発想力」です。スクールでは自分の好きなモノや
コトに関連するキーワードを出していくワークを
行うのですが、事前に私自身もやってみたところ、
意外と難しく悩んでしまいました。でも、参加
した中学生のみなさんは短時間で黙々と「好き」
に関するキーワードを出し、ワークシートいっぱ

いに埋めていきました。それを見て、ちょっと感
激してしまって。好きなことについて話を聞けば、
みんな弾丸トークをしてくれます（笑）。

❷一人ひとりの「好き」を認め合う社会はみん
ながしあわせになりますし、「好き」から新たな
事業や取り組みが生まれる場合もありますよね！
あともう1つは何ですか？

「仲間を集め、チームワークをつくりだす力」
です。参加者は全員初対面で、最初はみんな緊張
してぎこちない雰囲気でしたが、帰る頃には仲良

「マルイミライ・スクール」は、中学生向けの体験型プログラムです。参加者は自ら考え、周囲のアイデアに耳
を傾け、個性豊かな提案をし、とてもエネルギーに満ちた時間を過ごしますが、もしかして、いつかきっとこ
こから素敵なインパクトを生み出す人が現れるのではないのでしょうか。そこで、マルイミライ・スクール担任の
あんず先生に話を聞きました！ このスクールを通じて、どのような“中学生のチカラ”が見えてきましたか？

アクションプランをデザインした エポスカードをつくりました

ワークショップのゴールは、エポスカ
ードの制作。自身のアクションプラン
からイメージした思い思いのカードデ
ザインをつくりました。



原画

エポスカード完成！

色紙にデザインした原画が実際
のカードに！ 写真の作品名は
「楽しいまち」 by まっさー

みんなのエポスカードの一部をご紹介します！



RE USE,
CLCLE
by Ryuei O



ポケモン
無料体験キャンペーン
by DK



World Fan Meeting
by キズナ



リサイクル
by みーひ



ぶた肉でCO2削減
by ひなた



本を使ったアートを
作ろう!!
by りお



ガソリン消費0%
by タク



心も体もすっきり
音楽演奏会!
by しゅりんご

くなって、SNS アカウントを交換し合う姿が見
られました。話を聞けば、「好きなアイドルが同じ」
や「住んでいる地域が近い」など、それぞれ共通
項を見つけてつながりを広げていることがわかっ
て、仲間を集めるパワーの強さを感じましたね。
あと、グループワークを行った際には、チーム内
で得意なことを見つけて自然と役割分担している
姿にも驚かされました。

❸ 仲間が集まった方が大きなアクションを起こ
せる可能性も高くなったり、人とつながる力があ

ることは大切ですね！ 最後に、将来世代のみな
さんへメッセージをお願いします。

マルイミライ・スクールは、新しいモノやコト、
新しいアイデアと出会う1DAYプログラムです。
参加することで、自分のワクワクや気の合う仲間
を見つけていただけたらうれしいです！

マルイミライ・スクール
WEBサイトはこちら



将来世代の
メッセージボード
FOR 大人たち

ミライまで残したい みんなの声、集めました

最後に、中高生みなさんに1つの質問をして、集めた「みんなの声」をお届けします。これらの声はすべての大人たちに届けたいメッセージであるとともに、中高生みなさんにとっても心に残しておいてほしいもの。この想いを大切にしまま、未来の主役になってもらえたらと願っています。

質問

「しあわせ」な未来を共につくるために、
大人たちに求めていることはありますか？

ジェンダー平等を実現するために、今のLGBTQに
当てはまらない人も当てはまる人も
どちらの権利もそごなわないようにしてほしい

否定しないで
ほしい！

いるものと
いないもので
分けて欲しい

一つの決まったものだけを守り続ける
のではなく、今の時代にあった
新しい考えを生み出すことを目標に
してほしいです。

沢山の人の意見を
実現してあげてほしい。

環境のことや
将来を担う人たちの
ことをしっかりと
考えてほしいです。

将来世代である学生が
大人と対等に話し合える環境。
学生が考えているプロジェクトや計画に
大人が助けを出してくれる環境。

私達にこれからどのようなこと
をしてもらいたいたとか、今ど
のようなことをやっているのが
を教えてください。

今の状態を維持しよう
とする姿勢をやめる

大人も今のテクノロジーの
勉強をしてほしい

将来世代が
よりわかりやすいように、
残していけるように
環境について教えてほしい。

ちょっとでも環境に
いいようなことをしてほしい！
(例えばポイ捨てしないとか、
タバコを吸わないなど)



子どもがやりたいと
思ったことを、
やらせてくれる
環境作り

いまの中学生や高校生が
できることを教えてほしい。

編集後記

丸井グループがこれから注目する領域は
「好き」が駆動する経済です。

これは、一人ひとりの感情や価値観
つまり「好き」が原動力となる
新しい経済のことです。

私たちは、
皆さまの「好き」を応援する
ビジネスを広げ、
自分の「好き」を仕事に活かせる、
そんな社会を創ります。

私たちは、
将来世代の皆さまの「しあわせ」な
未来を全力で応援します。

丸井グループの目指す姿に
共感していただける方、
社会にとって価値のある
「インパクト」を共に起こしましょう。

株式会社丸井グループ

「好き」を駆動する経済

CO-CREATION

with you



未来の主役が“ミライ”を想う

IMPACT BOOK

FUTURE GENERATIONS EDITION



〇|〇|
MARUI GROUP

発行月：2024 年 10 月

発行者：株式会社丸井グループ

編集協力：一般社団法人 Think the Earth

Special Thanks

本ブックに参加していただいた中高生のみなさん：あいな、あいり、S・Oくん、M・T、我愛羅、カズマ、ギノ、けむんばす、こうけん、しゅりんご、す〜さんボイル、Taiji、タク、たっけー、D、DK、なみ、びか、ビヨコ、ほったん、まい、まっさー、みーひ、もっちー、ユウセイ、ゆゆ、りほ、わかな、わこ

※以上、すべてニックネーム（50 音順）